

集落支援だより vol.43

残暑お見舞い申し上げます

柱島群島のみなさん、毎日厳しい暑さが続いております
本当にこの暑さにはつらいものがあります
たいへんな時期だとは思いますが、もうしばらくです・・・
今年の夏も、何とかみんなで最後まで乗り切りましょう！



6月、県の「専門家派遣事業」を活用し、地域づくりを専門とする（株）ローカルラボの千々松講師によって、島の団体役員の方や世代別のグループを対象としたヒアリングが柱島供用会館において開かれました。

「集落や地域で生活維持のため必要な機能や場、島民が高齢になっても可能な限り安心して島内で生活できる環境づくり」をテーマとし、柱島の歴史や風土、伝統行事など、様々な興味深いお話や多様化する島の問題・課題についてお聴きしました。

その中でも島の大きな課題としては、高齢化と人口減少によって地域を支える人材が不足し、これまで行ってきたお祭りや年中行事などが島民にとっては負担となってきたことや、島のコミュニティの多くが弱体化してきているなど、島の将来を考えた場合の人材確保やその必要性について、みなさんからたくさんのご意見をいただきました。

今後におきましても、引き続き「専門家派遣事業」を活用しながら、皆さんと一緒に知恵を持ち寄り、相互の協働によって「誰もが住みやすい柱島であり続けることを」目的として、少しでも島の課題解決につなげていくことができればと思っております。



島の清掃活動・柱島に行こう会



6月、柱島で清掃活動を通じて交流を深めることを目的とした一斉清掃が行われました。島外からの参加者が実際に島に訪れ、住民と交流し自然の豊かさを実感してもらおうと「島づくり推進協議会」が企画したものです。今まで柱島では毎年春と秋の2回、住民を中心とした清掃活動が行われてきました。しかしながら、近年は島の高齢化率が82%と高くなり、作業を行うための人材確保が懸念されていたところ、4月に着任した「地域おこし協力隊」の横山隊員が中心となって、今回はじめて外部からのボランティアの募集を行いました。

清掃活動には市内外から38名が参加し、住民と一緒に5つのグループに分かれて、島の主要道路である「柱島一周農道」の清掃を行いました。島の一周農道は、およそ6.8kmの距離の道路で、普段は地元住民が畑仕事などで活用されています。

その日は、住民と協働で通行の妨げとなる枝や雑草を刈ったり、落ち葉を集めたりする作業が行われました。今回のボランティア参加者の中には、母親が柱島出身で関西（神戸）方面から参加された方もおられました。

また長きにわたり柱島地域にご尽力されてきた笹川自治会長に代わり、この度、新会長に任命・された生田会長からは「住民だけでは何日もかかるので、若い人たちの馬力がたいへん助かります」と話され、最後まで笑顔をみせておられました。